

岩野物産を子会社化

土木分野の事業領域拡大

伊藤忠建材

伊藤忠建材（東京都中央区、関野博司社長）は、土木工事関連資材の卸売りなどを手掛ける岩野物産（東京都江東区、中山尚社長）を子会社化する。土木分野で事業領域を拡大し経営基盤の強化につなげる。親会

社の伊藤忠商事が西松建設やオリエンタル白石の筆頭株主になるなど、土木分野で事業の裾野を広げる動きに連動。伊藤忠建材もバリエーション（価値連鎖）の開拓に注力する。

アの民需を中心に土木用資材の販売や施工などを手がけてきた。トンネルや処分場、橋梁などで使用する資材に強みがある。遮水シートや継ぎ手などで高いシェアを持ち、資機材の販売を通じ減災・防災に貢献し

てきた。

伊藤忠建材の上田宰之執行役員は、岩野物産の子会社化について「土木分野も

しっかりと育て、建築需要に左右されず安定経営につなげる」狙いがあると説明した。今後は建築、土木、店舗系の各資材とメーカーとしての商品（メラミン系フェノール樹脂板を使用し



上田執行役員

たトイレブースなど）をバランス良く展開し、事業の安定成長を目指す。

伊藤忠建材は1961年に伊藤忠商事の木材部門を分社化して創業した。建設資材本部は伊藤忠商事のコンクリート系資材販売などを引き継ぎ72年に設置。土木事業も同年から展開してきたが、その後、一時的に事業規模を縮小。新築住宅着工が減少する状況で非住宅の取り組みを強化するため、8年前に土木事業を再始動した。

